

庫爾勒は  
羅布淖爾  
への順路

暑厳しく  
蚊虻多し

哈爾阿滿山を貫流し、奔流急湍、紆餘曲折の間兩岸奇峯相聳え、絶壁削るが如く其脚下には樹木鬱蒼たり實に戈壁帶の一仙境とす。薄暮朦朧の裡、勝を探り要を尋ね、懸て狹谷を通過し畢れば行程約十七里、庫爾勒に到達し、廖守備等の出迎を受け、纏頭大阿渾アホン（回僧）の別莊に投宿す。

是日幸に曇天、加之微風の青衫を拂ふ有りて、斯は長途を通過し得たり。道路は紫泥泉ツニチヨラン（七人家）に至る間は草地を走る細沙道にして哈爾阿滿溝までは砂礫道なり其れより變して峽谷の隘路と爲る。庫爾勒は纏頭回民多く、戸數約二千、開都河市街を貫流し、附近を灌漑するが故に楊柳果木生ひ茂り、水田、火田亦少からず、繁華の一市街を成せり。此地は羅布淖爾に通ずる順路の分岐點にして該路は辛ふじて車輛を通ずと云ふ。

## 二、再び夜行の開始

二十七日滞在し、翌日出發す、前途は再び沙漠の地と爲りて、暑氣酷しく蚊虻多し爲めに日中の騎行は更なり乗車も亦堪ふべからず。因て普通旅客の例に倣ひ、午前十時より午後五時迄を休憩時とし其前後を進行時とせり。